

<ケーススタディ 東海大学観光学部の場合>

東海大学に観光学部が開設されたのは2010年。現在3年生が同学部の最高学年であり、ゼミ1期生となる。3,4年生を対象とするゼミのひとつでは国際観光を切り口とした学習、研究を行っており、このマレーシア研修では旅行博や観光資源の視察から、イン・アウトバウンド状況と対策を学ぶと共に、コミュニケーションを通じて英語学習意欲を高めた。帰国したばかりの三瓶文博先生にお話を伺いました。



【実施日程】2012年9月4日～8日（3泊5日）

【参加人数】観光学部（学生6名+教員1名）

Q 研修旅行の発端、マレーシアを選んだ理由を教えてください。

～学生にとって重要な条件をクリアできた～

A 今回は学生たち自ら、実習を兼ねて国際的訪問はできないか、という提案があり、現地の観光、イン・アウト事情などを知る目的で、1から研修ツアーを作ることを決めました。本研修は単位こそありませんが授業の一環ですので、がっこうからは旅行傷害保険を支援頂き、今回は有志ということもあり、学生が参加しやすい金額と期間の最大公約数的なところを考え決定しました。候補地として、いわゆるインドシナ半島あたりが良いと思っていました。



マレーシア、シンガポール、タイは各国観光資源をしっかり持っており、日本からも近く魅力的です。

日本と違う習慣があるところが好ましく、特に学生の自己負担を考え「より物価が安い」、そしてより「治安が良い」「英語が日常的に使用されている」ことにプライオリティをおき、マレーシアに絞り込みました。マレーシアはこれまでもマレーシア政府観光局から情報提供を頂いており、現地訪問の際には色々と協力を頂きやすいかもしれないということもありました。

Q どのような研修をされましたか。

～いろいろな現場の声を直に聞く～

A 計画し始めたのが5月でしたので、準備期間は短かったのですが、旅行会社さんに相談しながら現地へのアポも取りました。観光資源の視察のほかに3泊5日で何ができるかを考え、マレーシアの旅行博「MATTA2012」が開催される9月7日～9日に合わせて渡航をきめました。

MATTAにはビジットジャパンキャンペーンのもと日本から地方公共団体が14団体も参加しており、マレーシアから日本への誘致状況、具体的にどのような人たちが日本へいらっしゃるのか等聞く事ができました。



UCSI 大学では2時間ほど滞在し、短期留学コースの学生たちとのふれあいや学生寮の訪問、ランゲージセンターの授業を拝見させて頂いたり、コミュニケーションを通じて英語に親しんでほしいという思いも叶いました。

ツアーオペレーターとしての業務もされているゴールデンアドベンチャーーツアーズ&トラベル社では、日本人客対策を中心に、手配上での問題点や旅行代金の決済時期、為替の扱いやクレームへの対応の仕方など、興味深いお話をお聞きました。また、マレーシア・日本間のチャーター機の例を挙げながら、観光において相互交流「ツーウェイツーリズム」を重要視しており、スペシャルインタレストツアー（テーマ性のある体験型ツアー）にも力を入れているという原稿の声を聞かせて頂いたことはためになりました。

マラッカ視察で、非営利法人 No8 Heeren St.Heritage & Interpretative のマネージャーの方には、組織の目的と行動、マレーシアが今かかえている観光問題について伺えました。具体的には市街地の交通渋滞などです。

マレーシア政府観光局本局では、マーケット戦略、主に日本からの誘致事業についてプレゼンテーションして頂きました。同局としては、日本マーケットに関し、今後は留学生やロングステイの誘致に力をいれていきたいとの話を伺いました。



Q そのほか、学生さん達の印象に残った体験はなんですか

～マレーシアの面白さを、専門的な視点からも体験～

A セランゴール川の蛍をぜひ見てみたいという学生のリクエストがあり行ってきましたが、これがエコツーリズムの観点から見てもとても魅力的なものでした。真っ暗な中に群生している蛍を、手漕ぎの船で進みながら 30 分くらい鑑賞できます。自然保護の為大人数の受け入れは難しいそうですが、静かで、そして幻想的で、非常に良いものでした。

また研修の合間で行ったショッピングにも興味津々でした。高級ブランドなどではなく、伊勢丹のような地元の人たちがちょっと高級な買い物をするようなお店で、カジュアルに履ける質の良い靴が、日本で買う何分の 1 かの値で買えたりするというので、大変面白かったようです。



Q 成果と、今後の展望をお聞かせ下さい

～マレーシアで得た刺激とは～

A 複合民族国家とはなんなのか、実態を捉える事が出来たことや、手軽にいけてこれだけのことを勉強できるというのは何よりうれしいことです。そして最も素晴らしいのはマレーシアのホスピタリティを体験できたことでしょうか。

特に UCSI 大学での歓迎や、観光局本局で私たちが恐縮してしまうほどに親切丁寧な扱いを頂いたことが嬉しく、感動しました。

今後このようなフィールドワーク実施については学生たちとの出会いだと思っています。今回のように興味を持ってくれ挑戦できるのなら、たとえばマレーシアから少し足を伸ばしてみるというのも面白いですね。



東海大学 マレーシア研修旅行 行程表

日付	内容 / 行程	
9月4日	10:30	成田国際空港発
	16:40	クアラルンプール国際空港着 ホテルへ
9月5日	午前	クアラルンプール市内観光資源視察
	午後	UCSI大学訪問(学生交流会) Golden Adventure社訪問
	夕刻	セランゴール川景観視察
9月6日	午前	マラッカへ No8 Heeren St.Heritage & Interpretative訪問
	午後	マラッカ市内観光資源視察 クアラルンプールへ
9月7日	午前	マレーシア政府観光局本局訪問
	午後	MATTA(マレーシア旅行協会)主催旅行博覧会場訪問 ビジット・ジャパン・ブース取材
	23:30	クアラルンプール国際空港発
9月8日	7:40	成田国際空港着